

立沢里山

平成19年4月30日
里山新聞 第7号

発行：立沢里山の会 代表 鈴木 榮
問い合わせ先：事務担当
須賀（守谷市役所内 45-111 内線 222）
立沢里山ホームページ
<http://www3.ocn.ne.jp/tatuzawa>

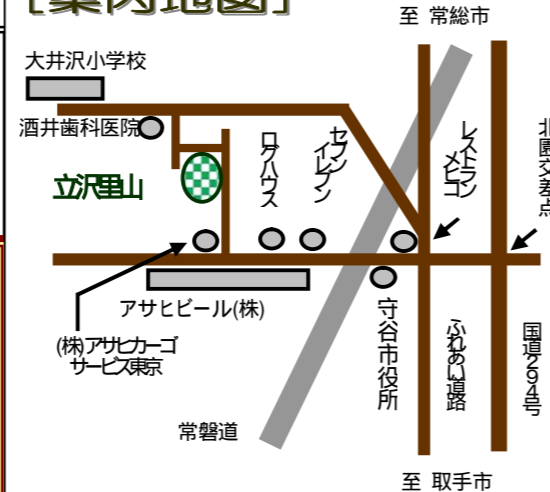
ボランティア募集
あなたも一緒に楽しみましょう!

～目次～

- 1 いきいきフェア
- 2 茨城県自然博物館「里山パネル展示」
- 3 御前山ビオトープに行ってきました
- 4 農地・水・環境保全向上対策について
- 5 木道補修作業
- 6 宇宙から見た立沢里山



【案内地図】



「立沢里山新聞」の記事をお願いします

san-seino@hb.tp1.jp 清野まで

1 いきいきフェア

守谷市民活動交流会の主催による「いきいきフェア」が3月17日（土）10時から守谷市中央公民館において開催されました。

今回は「セカンドライフ“定年後の夫婦の居場所”」と題して、市民活動表彰、活動団体の発表、パネル展示などが行われました。

「立沢里山の会」は昨年表彰されており、今回は活動内容の発表とパネル展示で参加しました。

会場のパネル展示コーナーでは数多くの活動事例が紹介され、市内各地で多彩に市民活動が展開されていることがわかりました。



2 茨城県自然博物館「里山パネル展示」

3月21日（水）板東市にある茨城県自然博物館ミュージアムパークにおいて里山パネル展示会記念イベントが開催されました。

その中で「私たちの里山活動」パネル展示会に我々「立沢里山の会」からもパネル展示、里山新聞の配布により活動紹介を行いました。



守谷市内からは「大柏里山の会」「柳生の森、もりや雑木活動グループ」からも参加しました。また、県内各地から里山の会や、小中学校関係からも沢山の展示発表があり、茨城県内各地で里山活動が大きな広がりになっていることを実感しました。

同じ会場では「いばらき自然環境フォトコンテスト」の作品も展示されていました。

午後一時半から「もっと何かできそう！里山の魅力・人と自然のこれから」と題して記念講演が行われ、立沢里山の会からは5名が参加しました。

講師は、ばりばりの44歳レンジャー隊長（東村山市）で、主に自然記録写真を中心にして自然に感動して生きることの素晴らしさについて講演が行われました。好きなことを仕事としてできることはうらやましい気もしますね。

3 御前山ビオトープに行ってきました

立沢里山はニュータウン開発でわずかに残された都市近郊の自然を守る活動ですが、県北の中山間地域には丸ごと自然に囲まれた本物の里山があります。

昨年に続いて間伐作業の手伝いをしながら、山野草の観察などを目的に出かけることとなりました。

3月25日（日）当日はあいにくの雨模様でしたが、総勢4人、今年は暖冬でカタクリやニリンソウの花が早くも満開との情報で出発しました。

現地では地元の人を含めて10数人が集合、まず御前山ビオトープの現状を視察しました。

もともとは「立沢里山」と同じように数十年間耕作放棄され原始林となっていた田んぼを再生して造った湿原性のビオトープということですが、深さの違う4つのため池、せせらぎ水路、小魚用に設置された手作り魚道、田んぼの学校用の水田や間伐材でつくった腰掛け野外教室、植物の説明用看板、川の上に建設されたデッキとログハウス、檜皮葺のエコトイレ等々が設置され、それらが数年の間に周辺の景色と自然に調和し山里の景観を形成していました。チップ材をまいた遊歩道は歩くとふわふわとして気持ちがよくなります。川やせせらぎ水路の水は飲めるほどのきれいさでした。

今後の立沢里山のイメージを考えるには絶好の場所と思います。雨は途中から小康状態となってきたことから、移植した希少植物の定着状況を調査した後、周辺のカタクリ、ニリンソウ、アズマイチゲなどの群落を観賞しました。雨上がりの霧に包まれた絵はがきのような幻想的な農村の原風景です。

建設中のダム現場や湛水予定地内の植物の群落も視察しました。洞窟探検もあり、コウモリがお昼寝中でした。

昼食は村の公民館で食べることにしましたが、地元の方のお茶の他に、手作りの草餅、梅干し、漬け物などをご馳走してくれました。大変素朴な味わいでした。

また地元役員の人達とも、運営上の苦労話が聞け、いろいろと意見交換ができました。

午後は雨があがったので、少しだけ間伐作業をして立沢里山用に材料等をもたらしてきました。

今回は雨天のため間伐作業はあまり出来ませんでした。中山間部へののどかなタイムスリップのようなドライブ散策で、マイナスイオンをしっかりと堪能しました。



4 農地・水・環境保全向上対策について

立沢里山は利根川の支流大野川の上流域に位置していますが、現在下流部の大野土地改良区を中心として国の新しい施策を受けて「大野地区田園環境保全活動」が検討されています。都市住民の参加も求められていることから、参考に施策概要を紹介します。

農地・農業用水等の資源は国民共有の財産

- 1) 農地・農業用水等の資源は、食料の安定供給や多面的機能の発揮の基盤となる「社会共通資本」です。
- 2) これらの資源の適切な保全管理を行うとともに農村環境の保全等にも役立つ地域共同の効果の高い取組を促進します。

新たな施策「農地・水・環境保全向上対策」のイメージ

「地域共同」「多様な主体の参画」を枠組みの基本

一定のまとまりある地域を対象に、農業者やその他の地域住民を中心とし、JA や土地改良区等の関係団体を含め、地域が一体となって資源や農村環境の保全活動に取り組む仕組みに、NPO や都市住民の参画も求める

例えば、

- ・地域ごとに、多様な主体が保全活動に取り組む活動組織を結成
- ・活動組織の構成員が取り組む行為を「活動計画」として明文化



農村の自然や景観の保全など新たな社会的要請にも応える仕組み

農地・農業用水等の資源を活用して行う生態系保全、水質保全、景観形成等の農村環境を向上させる取組を誘導



農地・水・環境の保全向上を図ることを通じた地域振興施策

- 資源の適切な保全の実効性を確実に担保し、かつ、地域社会全体への貢献や農村振興の観点から見た「効果の高い取組」を誘導。
- 効果の高い取組とは、
- ・施設の長寿命化(きめ細かな手入れ)
 - ・農村の自然環境や景観の保全
 - ・取組への多様な主体の参画
 - ・構造改革との連携・整合など



5 木道補修作業

3月24日(土)は今年最初の例会ということもあって、意欲的に20名前後の会員が集まりました。

今回、事務局では木道の補修用の板材の他、チェーンソー、電動ドライバー、草刈り機などもそろえて、装備も本格的に充実されてきました。

木道補修は皆でやると一時間ほどで資材がなくなり、とりあえずは材料のある分ということで終了です。

腐った板材の取り替えや、一部沈下した箇所は下に木材いれて嵩上げなどを実施しました。

また説明用案内板を小川横断部に廃材で設置し、四季



折々の植物の案内や来場者への説明などに使用できるようにしました。パンフレット箱も併せてつけました。

作業後、今後の散策ルートや水路整備などについて現地を歩きながら検討しました。

その後、皆でいきいきフェアなどイベント等への発表やパネル展示の報告、情報交換などをして、午前中で当日の例会は終了しました。

小春日和でメダカやオタマジャクシも沢山現れました。入り口付近にはホトケノザの大群落が見事に花を咲かせていました。



ホトケノザの群落



6 宇宙から見た立沢里山

会員からのメールを受けて開けてみました。



確かに立沢里山の座標が北緯35°57'23.80"N 東経139°57'57.27"Eということが分かりました。

地球サイズの画面から接近すると、人工衛星から直接見ているように次々と拡大していき、まるで映画「ゼロゼロセブン」の一コマと同じですね。

解像度もすごいですね、水田だけでなく、木道なども良く解ります。周辺の植生、車なども判別することが出来ます。

でもよく観てみると、少し古い写真のようです。

取水口北側の田んぼがまだ開田されていませんし、木道も昨年池の上にルート変更しましたが昔のままでした。

何年頃に撮影したものでしょう。